

笑顔あふれる街づくりを実現します!

みのり通信

2024年
春号
[令和6年]



■ 島山みのり道政事務所 〒005-0006 札幌市南区澄川6条4丁目2-1 澄川ビル2F
TEL: 011-813-7733 FAX: 011-813-7778

URL <http://minori-hatakeyama.jp>
Mail minori@minori-hatakeyama.jp



ご挨拶

2月21日から開催された北海道議会令和6年第1回定例会は、当初の日程通り3月19日に閉会しました。報道で目にした方もおられるかと思いますが、2月28日から始まる予定だった代表質問は、道と自民会派の間で答弁調整がつかず、翌日に延期される事態となりました。観光事業に係る令和5年度補正予算について、提案前のものであるにもかかわらず自民会派から道への様々な要望などがあつたと聞いています。この補正予算の提案に際し、民主・道民連合では連日、昼夜問わず会派の役員会が行われ、それに伴い会派所属の全議員が参加する議員総会でも議論が重ねられました。観光事業の補正を新年度の予算に組み込まず、令和5年度の補正予算にしなければならぬ理由には承服しかねませんが、「道民の理解が得られるよう、これまで以上に真摯（しんしん）に対応すべきだ」という意見を付けて可決しました。



北海道議会議員
島山みのり

観光事業の他にも、「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」いわゆる「核抜き条例」がおよびやかされるような議論もありました。核ゴミの最終処分地選定については、鈴木知事は一貫して「概要調査に移行しようとする場合は、現時点では反対の意見を述べる考え」としています。新年度が始まりますが、今後とも皆さまの声をいただきながら、道議会議員としての活動を続けてまいります。

第1回定例道議会報告

(令和6年2月21日～3月19日)

第1回定例道議会は、2024年度一般会計予算案、「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による日本人拉致被害者の全員帰国を果たし、拉致問題の完全解決を求める意見書」「見書」などを可決しました。代表質問には、中川浩利議員が立ち、防災・減災、医療・福祉課題、エネルギー政策、観光振興、地方交通・物流政策、環境政策、第1次産業の振興、人権等施策、北方領土返還要求運動、教育課題について知事（教育長）の考え方を質疑しました。

医療・福祉課題については、「コロナ後移行後の地域医療等」「介護に関する課題」「子ども医療費助成」に関して。
経済と雇用対策では、「ラピダスに係る課題」について、知事の認識や判断。
エネルギー施策では、「泊原発再稼働」「高レベル放射性廃棄物最終処分場選定に係る調査」「ゼロカーボン北海道の推進」の3点について質しました。

予算特別委員会では島山みのり道議は、環境生活部に、人権に関する政策課題、教育委員会に、夜間中学、イェナプラン教育について質しました。



採択された 決議・意見書

- 朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）による日本人拉致被害者の全員帰国を果たし、拉致問題の完全解決を求める意見書
- 根室海峡海域におけるロシア連邦トロール漁船に関する意見書

代表格質問での知事答弁

防災・減災

Q 災害時の避難所環境整備、その在り方、広域避難に関して、円滑な避難が可能なのか？

A マニユアルの見直しや能登半島地震の国による検証作業なども注視し、広域避難の訓練を実施し今後も円滑な避難に取組む。

原子力災害時の避難行動

Q 家屋が倒壊すると屋内退避が困難であり、原子力災害時の避難行動を再検討すべきでは？

A 屋内退避は国の動向を注視し対応する。建築物の耐震化促進に向けて、市町村等へ補助制度創設を働きかけるなど住宅耐震化に努める。

子ども医療費助成

Q 全ての子どもの必要に応じ平等な助成等を受けられるよう市町村格差を是正すべきでは？

A 道内市町村や知事会と連携し、全国一律の助成制度を創設するよう国に強く求める。

泊原発再稼働

Q 直近の情勢を踏まえ、道として主体的に安全性や経済合理性を検証し、再評価すべきでは？

A 安全性の確保は規制委員会が審査・確認することが重要。安全対策費用や廃炉費用を含め経済効率性は北電が説明すべき。



富山みのりの活動報告

2024年
2月21日

お昼休みには恒例の議場コンサートがありました。今回は札幌市立幌西小学校合唱団です。



2024年
3月9日

国際女性デーに合わせ、女性議員でジェンダー平等、女性の政治参加などについて札幌市内で街宣を行いました。



2024年
3月19日

道議会令和6年第1回定例会最終日、保健福祉委員長として、委員会に付託された議案審査を報告



2024年
3月19日

道議会食堂では北海道学校給食コンクール優秀賞の芽室町学校給食を試食しました。とうもろこしのだし炊きごはんです。



人権に関する政策課題

ビジネスと人権を調査

昨年夏に国連人権理事会の「ビジネスと人権」作業部会が来日し、国内での調査活動を行いました。国連の「ビジネスと人権」に関する指導の取り組みは昨年のジャーナリズム問題報道などで目にした方もいるかも知れません。企業活動を継続する上で、人権を守ることは不可欠であり、またSDGsの目標達成への観点からも重要な取り組みです。日本政府は国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を支持し、2020年に「ビジネスと人権に関する行動計画」を策定しました。



日本の人権意識

作業部会が作業終了後に示した暫定的な所見には、日本の人権意識に関する状況について種々指摘されています。特にビジネスと人権においてリスクにさらされているものとして、最初に挙げられたのが女性、その次がLGBTQ+など性的マイノリティ、障がい者、先住民族と続きます。

1985年に男女雇用機会均等法が制定されてから40年近くになりませんが、未だに男女の賃金格差が縮まっていません。作業部会の所見には「女性の正社員の所得が男性正社員の75.7%に過ぎないことは憂慮すべき事実」と書かれています。非正規労働者においても、女性は男性の80.4%の賃金です。昨年のジェンダーギャップ指数ランキングで日本が146か国中125位であることを考えれば、政府と企業が協力してその解消に取り組むことが欠かせないのではないのでしょうか。

札幌のレインボープライド

国連作業部会の所見には日本は人

権後進国という指摘がある一方、札幌市の取り組みが評価されています。それは「LGBTフレンドリー指標制度」と「札幌レインボープライド」です。所見の中で具体的な取り組みが紹介されていたのは札幌市だけです。道内で最初にパートナーシップ宣誓制度を始めたのも札幌市ですので、人権施策に力を入れて印象を受けます。

特に「札幌レインボープライド」は、市と市民団体が地元の中小企業を巻き込み、包括的な社会を作る上での中小企業の重要性に関する啓発を図っていることが評価されています。ちなみにレインボープライドでは知事や札幌市長をはじめ、道内各市長のコメントが寄せられ、自治体の性的マイノリティについての取り組みも紹介されています。

みんなのあたりまえ

人権配慮はSDGsの基本です。SDGsファシリテーターは「みんなのあたりまえが平等になることがその目標達成の一步」とおっしゃっていました。女性も性的マイノリ

夜間中学とインクルーシブ教育について

2022年4月に道内初の公立夜間中学校である札幌市立星友館中学校が開校しました。現在、北海道には札幌と旭川、函館、釧路に民間の自主夜間中学があり、そこで学ぶ方々にとってその存在はとても大きなものとなっています。星友館中学校は札幌にあるため、他の地域の方にも同じ授業を受けてもらおうと、開校後、2回のオンライン授業体験を実施しています。

若年層が増えている理由

「夜間中学等に関する協議会」では北海道における夜間中学のあり方を検討しており、昨年11月に行われた第9回の協議会ではオンライン授業体験の報告や国の取り組みなどが報告されました。その中で私が気になったのは、10代、30代の若年層の生徒が増えている点です。不登校などの様々な事情から実質的に十分な教育を受けられなかった方が増加していると考えられ、こうした層のニーズが高まっている傾向があると



いうことです。

通っている生徒の話を聴くと、学ぶことに対してとても意欲的であり、楽しいという声がほとんどです。

不登校生徒の受け入れ

道の教育委員会に対し、不登校となった学齢期の生徒を公立夜間中学校で受け入れることについて質したところ、「文科省では在籍校に籍を残したまま、民間施設(フリースクールなど)と同じように、夜間中学においても受け入れ可能という通知がなされており、不登校となっている学齢期の生徒の受け入れについても考慮していく必要がある」としています。

昨年6月に国の教育振興基本計画において、すべての都道府県と指定都市へ公立夜間中学校の設置を新たな目標として掲げました。道の教育委員会は札幌市以外での公立夜間中学校設置について、今後も協議会と提携し北海道の地域特性をふまえて検討を進めるとのことです。

インクルーシブ教育を柱に

夜間中学は学ぶ喜びに満ちています。インクルーシブ教育を柱とする新しい教育を実践している根室市花咲港小学校の校長先生は「多様性こそが学びを豊かにする」というお話をされていました。性別や年齢、障がいのあるなし、民族などみんなが違うことを認め合い、排他的ではない、排除されない包括的な社会に身を置くことで、学力以外にもたくさん学びや経験を得られるのだと思います。

この花咲港小学校のお話をうかがった時、どこか夜間中学に似ていると感じました。学校のあり方が少しずつ変わっていく必要があるのかも知れません。

札幌市立星友館中学校とは

義務教育の年齢(15歳)を超えている方で、国籍にかかわらず、様々な理由により中学校を卒業できなかった方や、不登校などで十分に学べなかった方などが、中学校などの学習内容を学ぶために、道内で初めて設置された公立夜間中学校です。

※4月から9月まで入学できます。2年生や3年生に入学することもできます。

※入学試験などはありません。

■学習時間

平日の夜間午後5時30分から午後9時00分まで

■夏休み、冬休みがあり、給食の時間があります。

卒業すると中学校卒業資格が得られます。

■費用

公立中学校なので、授業料はかかりませんが、教科書も無料でもらえますが、作品を作るのに必要な費用(月5000円位)、給食費(1食3000円位)がかかります。